



北陸ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 渡邊 珠代

石川県立中央病院 免疫感染症科 診療部長

研究要旨

北陸ブロックでは、様々な活動を通して医療体制の整備に取り組んでいるが、ブロック・中核拠点病院への患者の集中が続いている。HIV陽性者の高齢化に伴う介護・在宅ケアの整備、透析や歯科診療ネットワークの構築等が急務である。

A. 研究目的

北陸ブロック内のHIV感染症の診療の現状調査を行った上で、当ブロックにおける望ましい医療体制の整備を目指し、活動を行った。

B. 研究方法

①アンケートによる北陸ブロックの現状分析

北陸3県のすべてのエイズ治療拠点病院（13施設）とHIV診療協力病院（2施設）へアンケート調査を実施し、拠点病院等連絡会議、各種連絡・研修会や北陸HIV臨床談話会等でアンケート結果の報告および意見交換を行った。さらに、結果を冊子にまとめ、関係医療機関や行政機関等に配布した。

②HIV/AIDS出前研修

医療機関（病院・医院や介護福祉施設などを含む）で働く職員のHIV感染症に関する知識や理解の向上を図るため、ブロック拠点病院や中核拠点病院のHIV診療チームスタッフが講師となり、希望のあった医療機関で研修会を実施した。研修前後に、アンケートで研修の評価を受けた（介護福祉施設は研修後のみ実施）。後日、アンケート結果および研修資料をまとめた冊子を送付した。

③医療従事者向けHIV専門外来研修

HIV診療に関わる職員を対象としたHIV専門外来研修をブロック拠点病院で実施した。研修の講師はHIV診療チームスタッフが分担して担当した。

④医療職種別連絡・研修会

北陸3県でHIV診療に携わっている職員が、医療職種ごとに研修会・連絡会を開催した。

⑤北陸HIV臨床談話会

HIV診療や事業の従事者の情報交換の場の提供

を目的とし、北陸3県の医療従事者や行政担当者やNGOなどが参加する研修会を行った。

⑥教育啓発用資料の作成

HIV/AIDSについての基礎知識を図表として記載した卓上型カレンダーを作成し、ブロック内の医療機関に配布した。

<倫理面への配慮>

研修の際には、患者個人が特定されないよう、十分に配慮した。

C. 研究結果

①アンケートによる北陸ブロックの現状分析

北陸ブロックでのHIV診療の実情を把握するために、2025年3月末時点の診療状況について、ブロック内の全ての拠点病院と協力病院にアンケート調査を実施した。図1に、施設あたりの診療患者数（横軸）別にみた医療施設数（縦軸）について2021年から2025年までの5年間の状況を示す。中核拠点病院などの積極的に診療を行っている施設と定期受診者が無いまたは数名の施設の二極化を認める。図2に、北陸ブロックにおいて現在診療を受けているHIV陽性者数および感染経路別の年次推移を示す。同性間性的接触による感染が過半数を占める。

図3に、通院中のHIV陽性者のうち、抗HIV療法（ART）を受けている人数とその割合を示す。ARTを受けている人の割合は、2014年以降、大きく増加し、ガイドラインの治療開始基準の変更が影響していると考えられる。

②HIV/AIDS出前研修

2025年度は病院・医院（歯科医院も含む）6施設、介護福祉施設5施設に行い、計11回360名を対象に

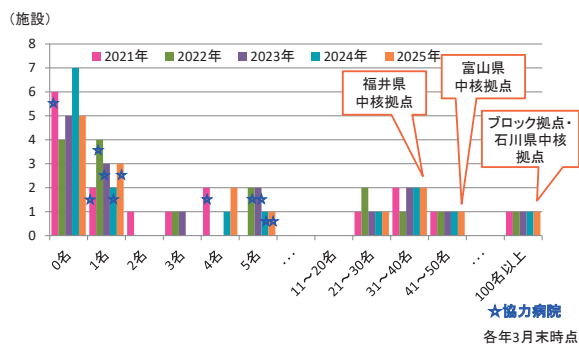


図1 診療患者数別施設数

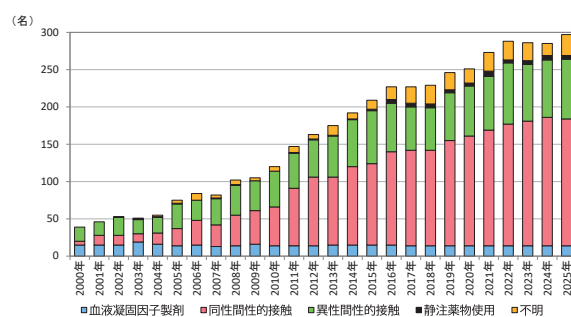


図2 定期通院中の感染経路別 HIV 陽性者数の推移

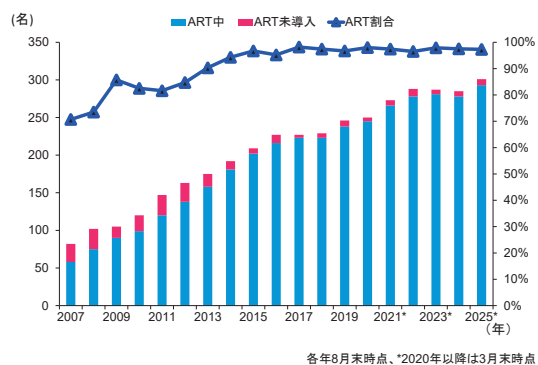


図3 ART の導入状況の推移

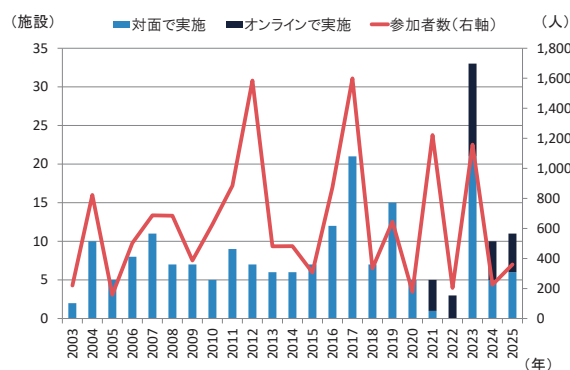


図4 HIV/AIDS 出前研修の年次別実施状況

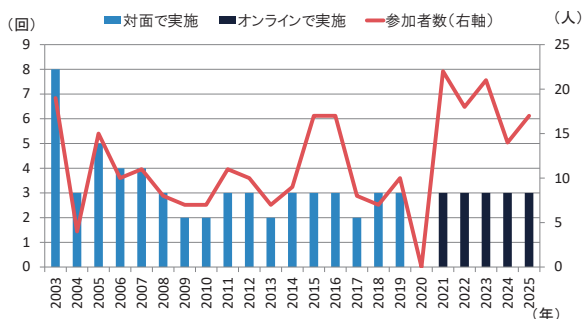


図5 HIV 専門外来研修の年次別実施状況

表1 職種別連絡・研修会(2025年度)

● 薬害エイズ研修会	131名	6月10日	金沢市・WEB
● 北陸ブロックHIV/AIDS看護連絡会議及び研修会	26名	6月27日	金沢市・WEB
● 北陸ブロックカウンセリング・ソーシャルワーク連絡・研修会	38名	7月28日	金沢市・WEB
● 福井県HIV/AIDSカウンセリング・ソーシャルワーク研修会	18名	11月7日	福井市
● 富山県HIV/AIDSカウンセリング・ソーシャルワーク研修会	14名	11月26日	富山市
● 令和7年度北陸ブロックHIV感染症看護師応用研修	2名	1月16日	金沢市
● 北陸地区歯科診療情報交換会・研修会	35名	2月15日	金沢市・WEB
● 看護師・MSW・心理職合同HIV研修会		3月6日	WEB
● HIV感染症薬剤師・栄養担当者・検査担当者合同研修会		3月10日	WEB

実施した。

図4に、2003年度からの出前研修の状況を年度別に示す。23年間で延べ211施設に出前研修を実施し、14,629名の参加を得た。

③医療従事者向け HIV 専門外来研修

今年度はオンライン形式で3回、開催した。2003年以降の23年間(2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため開催なし)で71回の研修を行い、延べ269名の受講者を受け入れている。図5に、HIV 専門外来研修の年度別実施状況を示す。

④職種別連絡・研修会

2025年度の職種ごとの連絡・研修会の一覧を表に示す。

⑤北陸HIV臨床談話会

2025年度北陸HIV臨床談話会は、9月6日に石川県立中央病院(石川県中核拠点病院)に対面形式で開催した。特別講演では、国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター 看護支援調整色の大金美和先生に「長期療養に関連した薬害HIV感染者の支援課題とその対策」の演題名でご講演いただいた。

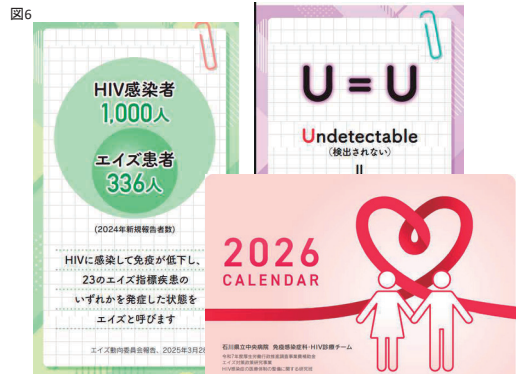


図6 HIV/AIDS啓発用卓上カレンダー

⑥教育啓発用資材の作成

日常診療でHIV陽性者との関わりがない医療機関の職員にもHIV/AIDSに関する知識を提供する目的で作成・配布した。カレンダーの左側には、HIV/AIDSについての基礎知識を図表として記載し、診療や業務の合間に気軽に学んでもらう機会を提供することを目的とした（図6）。

D. 考察

①アンケートによる北陸ブロックの現状分析については、北陸ブロック全体で診療を受けている患者数が増加している（図2）。なかでも男性同性間性的接触（MSM）によって感染した患者数が増加傾向にあり、MSMへのHIV感染予防啓発や、早期診断・治療への介入は重要である。患者がブロック拠点病院に集中する傾向は変わらないが、近年では富山県、福井県の中核拠点病院にも集まりつつある（図1）。HIV感染症は治療の進歩に伴い、「死の病」から「コントロール可能な慢性疾患」へと変化し、患者の高齢化や生活習慣病の合併が問題となっている今、拠点病院や一般病院、そして歯科を含めた医院との連携の必要性が増している。

②HIV/AIDS出前研修は、2025年度はのべ11回実施した（図4）。出前研修前にアンケートを実施することで、受講者のHIV/AIDSに関する知識・認識や、HIV診療への関心・意欲を事前に把握し、それらを研修内容に反映させた。また、アンケートの実施によって、疑問点が明確となり、受講者個人の研修参加意欲にもつながったと考えられる。2023年度からは、出前研修に用いたスライドと、アンケート結果を、フィードバック資料として後日配布し、研修内容を振り返り、再度知識の確認ができるよう、取り組んでいる。出前研修によって、少しづ

つHIV感染症への理解が進み、少しずつではあるが、医院、歯科医院、介護施設等での受け入れ事例が増えている。

③HIV専門外来研修は、2004年以降23年間（2020年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響で中止）で、269名の受講者を受け入れている。この研修を通じて、受講者の勤務先の病院と、ブロック拠点病院との間の診療連携につながった事例もある。拠点病院間の連携や拠点病院と一般病院との連携を含め、今後もそれらの輪が広がるよう期待している。専今後も研修終了後の評価や提案を検討し、内容や方法を充実させ、状況や需要に応じて継続する予定である。

④医療職種別HIV/AIDS連絡・研修会は、それぞれの医療職種において原則毎年開催しており、HIV診療の医療体制を整備するために重要である。様々な研修を通して、ブロック拠点病院と拠点病院、その他の医療・介護・保健施設、行政などが有機的連携を図ることができるよう、更なる医療体制の整備に向けて取り組みたい。

⑤北陸HIV臨床談話会は、HIV診療やHIV対策事業に関わる人や陽性者などが、情報を交換し共有する場である。2001年度に会として立ち上げ、年2回開催していたが、2009年度からは年1回、3県の中核拠点病院の持ち回り開催とした。2025年度は、石川県立中央病院（石川県中核拠点病院）で開催した。この会は、職種や施設を超えた情報の共有や活動の連携に重要な会となっている。地域性や職種を考慮した世話人らと、会の在り方や内容について話し合いながら、今後もその充実に努めていきたい。

E. 結論

北陸ブロックでは、各県の中核拠点病院の機能が

発揮されることにより、ブロック拠点病院への患者集中の緩和や、各中核拠点病院での経験の蓄積につながっている。しかし、一部の拠点病院を除き、治療経験の少ない拠点病院や患者を受け入れられない拠点病院が未だに存在することも事実である。効果的な医療体制を構築するために、各県の自治体やブロック拠点病院は、連携を保ちながら中核拠点病院への支援し、中核拠点病院は意識の向上に努めるとともに、県内の各拠点病院を支援することが重要である。一方で、長期療養・在宅ケア体制の整備、歯科治療および透析患者の受け入れ体制の整備も必要で、今後も研修や会議の機会を保ち続けていくことが重要と考えられる。

HIV 感染症がコントロール可能な慢性疾患と位置付けられるようになった今、患者の高齢化への対策、メンタルケア、遠方への通院困難や様々な合併症の管理の重要性が増していると考えられる。HIV 感染の有無に関わらず、必要な医療や福祉サービスが提供されるよう、医療体制をさらに整備していく必要があると考えられる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

原著論文による発表

欧文

- 1) Makiko Kamijo, Tohru Taniuchi, Kaori Kubo, Tamayo Watanabe, People Living with HIV in Japan Exhibit Situation-Specific Optimism Regarding the Progression to Acquired Immunodeficiency Syndrome (AIDS), AIDS Behav, 29, 3245-3252, 2025.

和文

- 1) 上條槇子, 谷内通, 久保かおり, 渡邊珠代, 北陸地方 HIV 陽性者における 抗 HIV 薬の服薬アドヒアランスおよび性格特性の関連. 日本エイズ学会誌. 27: 12-21, 2025.

口頭発表

国内

- 1) 渡邊珠代, エイズ合併ニューモシスチス肺炎に対する ST 合剤での治療継続率についての検討. 第99回日本感染症学会総会・学術講演会、第73回日本化学療法学会総会合同学会、2025年、横浜.
- 2) 渡邊珠代, HIV 陽性者の他院受診状況について

の検討. 第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会、第73回日本化学療法学会西日本支部総会、2025年、福岡.

- 3) 石井智美、車陽子、浅田裕子、渡邊珠代, 薬害 HIV 感染血友病患者の治療薬変更に伴う在宅療養支援. 2024年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年、熊本.
- 4) 安田明子、渡邊珠代, 抗 HIV 薬の院外処方せんにおける現状と課題. 第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年、熊本.
- 5) 南雅子、片田圭一、前田悠志、石井智美、渡邊珠代, HIV 感染血友病患者に対する身体機能評価と生活支援に関する取り組み-メディカルチェック+α事業の実践報告-. 第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年、熊本.
- 6) 山田栞里、石井智美、車陽子、辻典子、渡邊珠代, 当院へ通院中の HIV 陽性者の居住地域からみえる現状と課題. 第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年、熊本.
- 7) 菊地正、西澤雅子、林田庸総、湯永博之、豊嶋崇徳、吉田繁、伊藤俊広、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、末盛浩一郎、中村麻子、南留美、松下修三、仲村秀太、小島潮子、Lucky Runtuwene、椎野禎一郎、吉村和久、杉浦互. 2024年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年、熊本.
- 8) 福田あかり、古賀道子、田中貴大、保坂隆、石坂彩、野島正寛、柿沼章子、後藤智巳、藤谷順子、伊藤俊広、今橋真弓、江口晋、遠藤知之、木内英、阪森亮太郎、高橋俊二、照屋勝治、丹生健一、橋本則久、花井十伍、藤井輝久、南留美、茂呂寛、横幕能行、渡邊大、渡邊珠代、四柳宏. 薬害 HIV 感染被害者に対するがん検診受検希望についてのアンケート調査. 第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年、熊本.

H. 知的所有権の出願・取得状況

該当なし